

〔論文〕

# 我が国の幼児教育における「水遊び」に関する研究の動向

平 松 美由紀  
Miyuki Hiramatsu

大阪総合保育大学大学院  
児童保育研究科 児童保育専攻

本研究では、我が国の幼児教育における「水遊び」を対象とした先行研究を概観し、研究内容を検討・分析することを通して「水遊び」に着目した研究動向を整理することを目的とした。今回の研究は、対象とした文献が少なく、今後の研究課題の整理を行う予備調査に留まっている。そのため、結果は限定的にならざるを得ないと考えている。このことを踏まえ、「水遊び」に関する先行研究を通して、研究領域と構成要素は以下の通り分類することができた。SCAT分析の結果より、導き出された概念について【\*\*\*】内に記載をした。

1. 幼児教育の実践に関わる領域【幼児の遊びにおける効果の検討】【遊び体験の記憶による影響】【環境を通して行う遊び】【社会に開かれた教育課程】
2. 児童期との接続に関わる領域【幼児期から児童期への接続】
3. 幼児教育に関する基礎的な視点の領域【水遊びの健康安全】【幼児教育に関する教材の理解】

以上の結果から、我が国における幼児教育における「水遊び」を対象とした研究は、実践に関わる研究領域の視点に着眼されているが、幼児期以降への接続や健康安全への着目もなされていることが分かった。

キーワード：幼児期、水遊び、遊び、幼児教育、保育

## I. はじめに

### 1. 研究の目的

本研究では、「水遊び」と総称される幼児が水と関わる遊びについて先行研究を概観し、その研究目的、研究対象を検討、研究結果を分析することを通して、「水遊び」に着目した今までの研究動向を整理することを目的とする。

2018年、保育所保育指針(2018)、幼稚園教育要領(2018)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2018)(以下3法令と記す)が同時に告示された。ここでは、3歳以上の幼児教育が共通化されたことにより、どの施設においても、その後の小学校以上の教育の土台はもちろん、さらに生涯を通しての成長の土台として認識が、社会的に高まることとなった。つまり、すべての施設において質の高い幼児教育が行われることを国として明言したのである。このことは、今、着目された訳ではなく、140年を超える道のりがある我が国の幼児教育は、遊びをその中心に据え、実践されており、幼児期の教育の重要性は、歴史的にも周知されている点である。

3法令が、同時告示となった大きな改革がなされている今も昔も園で過ごす幼児<sup>注1)</sup>は、変わらず、全身で懸命に遊んでいる。その遊びは、一人一人興味ある遊びで

あったり、偶然出会った出来事に心を惹かれ遊びとなったりその様相は様々である。戸外でも室内でも、晴天でも雨天でも積雪でも乳幼児は、自分の心の赴くままに遊ぶのである。

幼稚園教育要領解説(2018)には、幼児の遊びに内包される具体的な体験の価値に関する記述がある。ここでは、本研究に関連する「水に関わる記述」を概観する。環境の内容(1)の解説には、「例えば、クモの巣に光る露に心を動かされたり、自分で育てた花から取れた種をそっとポケットにしまい込んだりなど、幼児は日常の何気ない生活場面で心を揺り動かしている。」(下線部は著者による)とある。同様に内容(3)の解説では、「夏の暑い日に浴びるシャワーの水は心地よいが、冬の寒い日に園庭で見付けた水混じりの水は刺すような冷たさを感じるなど、何気なく触れているものでも季節によって感触や感じ方が異なるといったように幼児自身が全身で感じ取る体験を多様に重ねることが大切である。」(下線部は著者による)とある。この具体的な姿は、幼児が水と出会う経験を取り上げ、そこで何を感じ、何を体験するか、ただ遊んでいるのではなく、幼児の内面に着目し、気付きや感動、探究心や好奇心を感化することが、幼児教育の営みの本質であると換言することができる。では、水遊びと一言でいう遊びにおいて幼児は、何

を体験し、どのような力が獲得できるのであろうか。水遊びに着目してみることにする。

## 2. 「水遊び」の定義

一般的に水に関わる遊びのことは「水遊び」と呼ばれている。広辞苑第七版(2018)によると「①海・湖・川などで遊ぶこと、②水を使って遊ぶこと」とある。さらに、幼児教育における「水遊び」に関する定義を俯瞰するために、幼児保育学辞典(1980)・改訂新版保育用語辞典(2019)・保育学用語辞典(2019)に書かれている記述をまとめたのが表1である。

記載されている説明から、「水遊び」とは、次の5点にまとめることができる。

- ・水を用いたり、使ったりする遊び
- ・水に直接入ったり、触れたり、何かと混ぜたり、間接的に見たりする遊び
- ・水とほかの物との関連で楽しむ遊び
- ・室内や室外でも行う遊び
- ・生活習慣において水と関わることもある

さらに3点の辞典には具体例やその他の留意点もある。

まず、幼児保育学辞典(1980)には、具体的な遊びが、「プールや、川や海で水泳の前の段階として水への好奇心を育て、恐怖心を除くことが大切である。バケツの水運び、シャボン玉、水鉄砲、魚釣りごっこ、如雨露(じょうろ)遊び、洗濯遊びなどから、水辺で波とかけっこ、鬼ごっこ、ボール遊び、水かけごっこなどをし

て水に馴れた後、水中に入り、徐々に顔を水につけ、もぐり、水中ジャンケン、石ひろい、わに歩き、トンネルくぐり遊びなどからバタ足や犬かきの手足の練習に入り、呼吸法なども教えて泳ぎの初歩へとすすめていく」と記載されている。ここでは、幼児期以降の水の中で泳ぐ行為を見通し、水を使う遊びが多種、例示されている。

次に、改訂新版保育用語辞典(2019)には、同様に水泳に繋がることを見通す記載もあるが、反面、その危険性について次のように言及している。「しかし、水遊びは遊び方を誤るとたいへん危険である。水の事故に遭わないよう、十分な注意と警戒が必要である。水遊びの際は、保育者や大人は子どもから目を離さないようにする。非常時には、すぐに助けられる体制を整えておく。保育者は人工呼吸をはじめとする応急処置について研修し、その方法について熟知しておくことが望ましい。また衛生上、水から上がった後、目を含め、清潔な水で体をしっかり洗い流す必要がある。」このように、水遊びでは、楽しさと危険性が表裏一体であることが分かる。そのため、保育者に求められる安全管理責任は大きい。

さらに、保育学用語辞典(2019)では、同様に事故発生の可能性が高いことが示され、保育所保育指針(2018)第3章「健康及び安全」の記載を示し、遊び手の個々の年齢、身体能力や経験から生じる危険を予測し、実践する必要があることに言及されている。

一方、保育・幼児教育・こども家庭福祉辞典(2021)では、「水遊び」についての記載が見当たらないが、「自

表1. 幼児教育に関連する用語辞典のうち「水遊び」の説明記載一覧

辞典名(出版社)	記載されていた意味	監修・編者	発行年
幼児保育学辞典 (明治図書出版株式会社)	みずーあそび【水遊び】子どもを水の中に入れ、水に慣れてその性質を知り、水上や水中の変化に富んだたのしさを味わわせることを目的とした遊び。	村山貞雄	1980
改訂新版保育用語辞典 (株式会社一藝社)	水遊び playing in the water/using the water/dabbling in water 水を使って遊ぶこと、または海・湖・川などの水の中で遊ぶこと。水をかき混ぜたり、たたいたり、足をバシャバシャさせたり、物を浮かべたり沈めたりして楽しむ遊びである。	谷田貝公昭	2019
保育学用語辞典 (中央法規出版株式会社)	水遊び 水を用いた遊び。水の感触や流れの様子を楽しんだり、着色したり容器に入れて光にかざしたりするなど、道具を組み合わせることで、さまざまな楽しみ方がある。園では、水温が心地よく感じられる初夏から初秋にかけて、水遊びを行う姿がみられる。また、屋内よりもテラスや園庭など、屋外で行われることが多いが、少量の水による遊びでは、屋内でも行われることがある。生活習慣(顔の洗い方、お風呂の入り方など)も含め、水に親しむ経験など個人差が大きく出る遊びといえる。	秋田喜代美	2019

然遊び」の説明に次のように示されている。「自然遊び 自然物や自然事象を利用した遊び。枝や木の実などを使用した製作活動、草花を使った色水遊び、虫捕り、水遊び、風を使った遊び、栽培などがそれにあたる。」(下線部は著者による) このことから、水遊びは自然物の水で遊ぶことであるといえる。しかし、先述の保育学用語辞典(2019)では、「生活習慣(顔の洗い方、お風呂の入り方)も含め～(後略)」とあるように、生活においては人工的に衛生的に安全に造られた水と出会うことは恒常である。

このように「水遊び」の用語説明は、広い範囲でなされており、自然遊びに内包されていることが分かる。また、幼児にとって「水遊び」は、家庭生活はもとより、園生活においても身近な遊びであることもいえる。

そして、その幼児の生活には、1年間を通して水が存在している。季節と共に出会う雨、手洗いの際に蛇口から出る水道水、通園路の際に出会う川など人工的な水、自然界の水、双方共に幼児が出会う水である。幼児は、出会った水に興味を示し、それ自体が形を留めないことや砂と出会うと砂の形状が固まったり、流れたり、色付いたりと変化する様子を不思議に感じたり、探究しようとしたりする。このような幼児の姿からすると、幼児が、水という環境に心惹かれることは確かである。

このように幼児の生活には水という環境が満ち溢れている中でも、前出の幼稚園教育要領解説(2018)の具体的な著述にあるように、幼児がクモの巣に光る露に好奇心を抱いたり、季節に影響を受け温度が変化する水や自

然現象である雨との出会いに感動したりする水に関わる遊びが、具体的に追究されている研究はどのような視点で行われているか、この動向を整理することで幼児教育における「水遊び」の新たな研究課題を導き出すことができると考える。

## II. 研究方法

### 1. 研究対象の抽出

幼児教育における「水遊び」の研究に着目するため、国立情報学研究所(NII)が提供する文献情報・学術情報検索サービスCiNii Articles並びにCiNii Researchを使用し、データベース検索を2021年10月22日に行った。検索範囲は、2021年10月までに公表されたものとした。キーワードは、「水遊び」と「幼児教育」「保育」「幼児」とかけ合わせて検索を行った。キーワード検索の結果、CiNii Articlesでは計66件が該当、CiNii Researchでは90件が該当した。これらの中には、「水遊び」and「幼児教育」、「水遊び」and「保育」、「水遊び」and「幼児」のそれぞれに重複するデータが検索されたため、その確認を行った。また、書籍、学会ポスター発表要旨、科学研究費助成事業の研究概要を除き、原著論文であるものに精査すると17件に絞り込まれた。この中で本文の検索に至らなかった論文1件を除き、16件の論文を本研究の分析対象とした。この一覧を表2に示す。

表2. 本研究で分析対象となった論文一覧

論文番号	検索ワード	表題	著者(年)	掲載雑誌
①	水遊び×保育	集団感染事例における腸管出血性大腸菌O26分離培養法の検討	川合常明・廣地敬・坂本裕美子・赤石尚一・大谷倫子・藤田晃三(2002)	札幌市衛生研究所年報29
②	水遊び×保育	保育における水遊びの効果に関する一研究-投影樹木法における成長指標(GCL)とトラウマ指標(TCL)からの検討-	大辻隆夫・塩川真理・田中野枝(2005)	京都女子大学発達教育学部紀要1
③	水遊び×保育 水遊び×幼児	原風景としての幼児期-保育者養成課程学生の思い出し記録から-	栗原泰子・野尻裕子(2005)	川村学園女子大学研究紀要16
④	水遊び×幼児教育 水遊び×幼児	小学校体育科への伝承遊び導入について-子どもたちの直面する様々な問題との関わりから-	石川恭・加藤玲香(2013)	愛知教育大学教育創造開発機構紀要3
⑤	水遊び×幼児教育 水遊び×幼児	5歳児の遊びの見られる科学的萌芽-砂場遊び、シャボン玉遊び、色水遊び、泥だんごづくりの事例を通して-	加藤尚裕(2013)	国際経営・文化研究18

⑥	水遊び×保育 水遊び×幼児教育 水遊び×幼児	沖縄県内幼稚園における地域に根差した造形教育の取り組み～身近な植物を用いた造形や染め織りの実践に関する調査2～	佐久本邦華 (2017)	沖縄キリスト教短期大学紀要 46
⑦	水遊び×保育	子どもの水遊びについて－保育者養成の観点から－	渡部昌史・斎藤健司・岡本直行 (2017)	新見公立大学紀要 38
⑧	水遊び×保育	幼稚園・保育所における水遊び・水泳指導の実態と小学校体育「水泳」との系統性・連携について	藤田公和・中野真知子 (2017)	桜花学園大学保育学部研究紀要 15
⑨	水遊び×保育 水遊び×幼児	明治の洋楽草創期における幼児唱歌集に関する研究	大山伸子 (2018)	沖縄キリスト教短期大学紀要 47
⑩	水遊び×保育 水遊び×幼児	幼児のにおいへの気づき－色水遊びを通して－	貞方聖恵・野見山萌・川里智子・船越美穂 (2018)	福岡教育大学紀要 67
⑪	水遊び×保育 水遊び×幼児	木の船を作って遊ぼう	守川美輪 (2018)	宮崎国際大学教育学部紀要教育科学論集 5
⑫	水遊び×保育 水遊び×幼児教育 水遊び×幼児	自然物を用いた色水遊びにおける年中児の同型的行動－幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連－	小幡真菜・若山育代 (2019)	とやま発達福祉学年報 10
⑬	水遊び×幼児教育 水遊び×幼児	幼稚園と小学校の連携－「水遊び」に着目して－	河田聖良 (2019)	日本体育大学大学院教育学研究科紀要 3
⑭	水遊び×保育 水遊び×幼児教育 水遊び×幼児	テキストマイニングによる幼稚園・保育所における水遊びに関するアンケート調査の分析	山田悟史 (2020)	スポーツと人間：静岡産業大学論集 4
⑮	水遊び×幼児	主体的・対話的で深い学びの観点からの身近な植物を活用した幼児の色水遊びの分析－生活科へつなぐ試行錯誤のお茶作り遊び－	岩淵善美・金子眞理・大矢宣絵・井上容子 (2020)	平安女学院大学研究年報 21
⑯	水遊び×保育	保育士の保育経験年数の違いが3歳の砂遊びに与える影響	貞松成 (2021)	大阪総合保育大学紀要 15

## 2. 分析方法

表2に掲載した16件の論文の分析を次の手順で行う。まず、各論文の研究目的と研究対象を年代順に検討する。さらに、研究結果は、SCAT (Steps for Coding and Theorization: 大谷 2007) を用いて分析を行う。大谷 (2007) は、質的研究のひとつの手法である文書分析 (document analysis) として文書の内容をデータとして分析できると述べていることから、本研究では対象となった論文の「結果部分」を原著のままデータとして用い、「Step1: 着目すべき語句」「Step2: 語句の言い換え」「Step3: 言い換えた語句を説明するための語句」を抽出し、そこから浮かび上がる「Step4: テーマ・構成概念」を抽出するという4ステップにより分析を行った。そして、コーディングと構成概念をつなぎストーリーラインを見出し、理論記述を導き出す分析を行う。なお、大谷は「Step5: 疑問・課題」については、

「コード」ではないと述べているので表には記述していない。また、ストーリーラインから「理論記述」「さらに追究すべき点・課題」に関しては、本論文の考察、並びにまとめて記載したため表からは省略している。分析は、保育士勤務経験26年及び保育者養成校勤務経験10年1名と幼稚園教諭勤務経験21年と保育者養成校勤務12年1名の計2名で3回の分析を行った。

## Ⅲ. 結果

### 1. 研究目的と研究対象の検討結果

表3-1～表3-5、表4-1～表4-6は、分析対象となった16件の論文の研究目的と研究対象について、着眼している視点別に一覧にしたものである。

#### (1) 研究目的の検討結果

研究目的を概観すると、5つに分類することができた。



表3-1. 研究目的として主に幼児の遊びに着眼している論文の一覧

論文番号	研究目的
②	GCL と TCL を用い、GCL の出現と TCL の減少から保育における水遊びの効果を実証的に検討する。
⑤	子どもの遊びの中に見られる科学的萌芽の実態を明らかにする。
⑩	「色水遊びを通したにおい気づく行動」の実践結果をもとにエピソード分析を行い、子どもたちがにおい気づく様子や活動の中で見られる子どもの育ちを検討する。
⑫	1. 年中児が自然物を用いた色水遊びにおいてどのように同型的行動が表れるか。 2. 始めから次の遊びに移行するまでのプロセスとし、同型的行動と10の姿との関連性について明らかにする。
⑮	1. 年間を通して幼児がどのように草花を活用して色水遊びをするか。 2. 身近な植物を活用した色水遊びを整理分析する。
⑯	1. 保育士の経験年数の違いによって砂場における保育士の行動にどのような違いがあるか明らかにする。 2. 子どもの砂場遊びの内容にどのような変容が見られるか明らかにする。

表3-2. 研究目的として主に保育者養成や現職保育者研修に着眼した論文の一覧

論文番号	研究目的
③	1. 保育者を目指す学生が幼児期の原風景の中から遊びの思い出として記述したものを抽出分析し、特徴を明らかにする。 2. 保育者を目指す学生の原風景として残る保育者像の特徴を明らかにする。
⑦	学生の自然体験の実態把握と保育者養成における水遊びの活動展開について検討する。
⑭	水遊びに対する現職保育士・幼稚園教諭の意見をテキストマイニングでまとめ、養成校での学びと現職研修に資する。

表3-3. 研究目的として主に小学校との接続に着目した論文の一覧

論文番号	研究目的
④	小学校低学年において、学習指導領域の目標を基準に、体育科の授業に伝承遊びを導入することの効果を現代社会の子どもたちが直面している様々な問題との関わりから考察する。
⑧	幼稚園・保育所と小学校低学年の水遊び・水泳の実態を調べるとともに、連携の在り方について検討する。
⑬	幼稚園と小学校の連携に関わる取り組みの現状把握をする。(幼児期の子どもと低学年児童の水遊びに着目する)

表3-4. 研究目的として主に教材研究に関する論文の一覧

論文番号	研究目的
⑥	2016年に実施した沖縄県内の保育所園の調査結果と同様の傾向がみられるか調査する。
⑨	幼児唱歌集の変遷を辿る。
⑪	船の玩具と遊び、保育者及び幼児対象の船の製作指導の成果と課題について述べる。

表3-5. 研究目的として主に健康安全に関する論文

論文番号	研究目的
①	2002年7月ほぼ同時期に2箇所の保育園にて集団感染が起り、その調査結果より検査法について検討を行う。

その結果を表3-1から表3-5に示す。まず、幼児の遊びに着眼している研究は、表3-1に示される論文番号②、⑤、⑩、⑫、⑮、⑯の6件であった。水遊びにおける発達過程や遊びの効果について検討された研究であった。

次に、保育者養成における課題を明らかにすることや現職保育者研修に着眼した研究は、表3-2に示される論文番号③、⑦、⑭の3件であった。保育者養成における水遊びの在り方や現職保育者の捉える水遊びを検討した研究であった。

そして、主に小学校との接続に着眼した研究は、表3-3に示される論文番号④、⑧、⑬の3件であった。水遊びと小学校体育科との関連や教育内容、並びに教育課程の接続に関する課題を明らかにしようとした研究であった。

また、教材研究を主な視点としている研究は、表3-4に示される論文番号⑥、⑨、⑪の3件であった。教材の効果や実態調査を行う研究であった。

さらに、研究目的として主に水遊びの健康安全に関する視点とした論文は、表3-5に示される論文番号①の1

件であり、水遊びにおける感染に関わる検討が行われた。

#### (2) 研究対象の検討結果

次に、研究対象を概観する。研究対象は研究目的の達成のために選定されていると予想される。まず、主として研究対象が、幼児や保育者である研究は、表4-1に示される8件であった。次に主として研究対象が、保育者を目指す学生である研究は、表4-2の2件であった。共に学生を対象としていた。さらに、主に、保育者と小学校教諭を研究対象である研究は、表4-3の2件であり、現職保育者と現職小学校教諭を対象としていた。主に組織体としての園を研究対象とした研究は、表4-4の1件であった。各園を対象としていた。主に文献を研究対象とした研究は、表4-5の2件であった。幼児期と小学校体育科との接続に関して学習指導要領解説や伝承遊びに関する文献や、幼児唱歌集を対象としていた。研究対象が、幼児、保育者、小学校教諭、園、文献以外の研究は、表4-6の1件であった。これは、保育園における集団感染の事例から感染検体を研究対象としていた。

表4-1. 主として研究対象が幼児や保育者である一覧

論文番号	研究対象
②	実験1 短期水遊び保育群：保育園年長児 23名 短期自由遊び保育群：保育園年長児 24名 実験2 長期水遊び群：年中児・年長児 45名
⑤	・砂場遊び：20名 40分間（サンプリングICレコーダーの装着10名：会話時間31分間） ・シャボン玉遊び：86名 30分間（サンプリングICレコーダーの装着20名のうち会話が収録できた19名：会話時間12分間） ・色水遊び：48名 30分間（サンプリングICレコーダーの装着20名のうち会話が収録できた12名：会話時間13分間） ・泥だんごづくり：85名 30分間（サンプリングICレコーダーの装着19名のうち会話が収録できた8名：会話時間15分間）
⑩	幼稚園3～5歳児 ビデオ、ボイスレコーダー、メモによる記録
⑪	保育者、年少児、年長児、学童保育の小学生
⑫	4歳児37名 観察はビデオカメラにて行い合計13回
⑭	保育士・幼稚園教諭812（I市151、K市597、T市64）回答のうち自由回答項目回答の115回答（I市34、K市75、T市6）
⑮	5歳児20名 直接観察、デジタルカメラ記録、保育記録、保育者からの聞き取り調査によるエピソード抽出
⑯	新人保育士（保育経験1年）10名、中堅保育士（保育経験5～10年）10名、3歳児129名の合計149名

表4-2. 主として研究対象が保育者養成校の学生である一覧

論文番号	研究対象
③	大学幼児教育学科2年77名 アンケート調査
⑦	短期大学幼児教育学科2年48名 アンケート調査

表4-3. 主として研究対象が保育者と小学校教諭である一覧

論文番号	研究対象
⑧	保育者115名（私立幼稚園教諭52名、私立保育所保育士30名、公立幼稚園教諭3名、公立保育所保育士30名） 公立小学校で特に1、2学年担当の教諭80名 アンケート調査
⑬	幼児実態調査（2015年度、2017年度：文部科学省） 保育者1名：11年経験、小学校教諭2名：6年、10年経験、インタビュー調査

表4-4. 主として研究対象が園である研究の一覧

論文番号	研究対象
⑥	県内計250園（公立217園、私立33園） アンケート調査

表4-5. 主として研究対象が文献である研究の一覧

論文番号	研究対象
④	文献研究
⑨	保育並遊戯唱歌、幼稚園唱歌集、幼稚園唱歌にある唱歌教材

表4-6. 研究対象が幼児、保育者、小学校教諭、園、文献以外である研究の一覧

論文番号	研究対象
①	2保育園園児、職員、家族の便832検体、保存食40検体、ふきとり検体21検体：計893検体

## 2. 研究結果のSCAT<sup>注2)</sup>による分析結果

SCAT分析で導いた7つの「テーマ・概念」と、その判断根拠をまとめたのが表5である。後の考察における引用のために、それぞれのテーマ・概念を【\*\*\*】と表記する。

まず、テーマ・概念として【幼児の遊びにおける効果の検討】が導きだされた論文は6件あった。論文番号②は、自由遊びと比較して水遊びの方が優位に心理的成長に寄与することと個性の成長を促す効果があること、並びに、水遊び効果は、期間の長短で影響があるわけではなく、自由遊びと水遊びで比較すると治療としては有用とはいえないことが分かった。次に、論文番号⑤は、どの幼稚園でも手軽に親しみのある教材4つを視点とし、

いずれも科学的萌芽と考えられる育ちの育成に適した遊びであることが明らかとなった。同様に色水遊びを実践した論文番号⑩は、においへの気づき方と社会性の発達において、3歳児から5歳児によって違いがあることが示された。さらに、論文番号⑫は、自然物を使った色水遊びでは一人一人が扱う自然素材や用具がほぼ同じであっても育ちの期が異なっており、選択の方向や時間経過が全く異なっていることを明らかにしていた。同様に論文番号⑮は、色水遊びの事例から幼児が活用する身近な植物を明らかにするとともに、幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿を育てている実際の姿と主体的・対話的で深い学びの過程を抽出していた。そして、論文番号⑯は、保育士の経験年数において砂場における保育

表5. SCAT 分析で導き出された、テーマ・概念一覧

テーマ・概念【***】	判断理由	論文番号
【幼児の遊びにおける効果の検討】	具体的な遊びと幼児を対象としている記述があり、調査から結果が明らかになっているもの	②、⑤、⑩、⑫、⑮、⑯
【遊び体験の記憶による影響】	過去の遊びの経験や記憶の記述があり、調査から結果が明らかになっているもの	③、⑦
【環境を通して行う遊び】	具体的な遊びについての記述が読み取れるもの	⑤、⑥、⑩、⑪、⑫、⑮、⑯
【社会に開かれた教育課程】	実践に関わる計画に関する記述が読み取れるもの	⑥
【幼児期から児童期への接続】	遊びに関する記述と児童期の教科との関連に関する記述が読み取れるもの	④、⑧、⑬、⑮
【水遊びにおける健康安全】	幼児の健康や安全に関する記述が読み取れるもの	①、⑦、⑭
【幼児教育に関する教材の理解】	幼児教育に関わる教材の具体的な活用や歴史についての記述が読み取れるもの	④、⑥、⑧、⑨、⑪

士の行動の違いを明らかにするとともに3歳児の砂遊びの変容には、保育士の人数が関連していることを確認した。遊びの種類については、特徴的なものは経験年数に伴って砂に水を加えて遊ぶ傾向があることが分かった。このように心理学的視点、実際の幼児の事例からの分析や保育士からの影響という点において【幼児における遊び効果の検討】がなされていることが分かった。

次に、テーマ・概念として【遊び体験の記憶による影響】が導きだされた論文は2件であった。論文番号③、⑦は、保育者をめざす学生自身が、幼少期にどのような遊びを体験しているか、水を中心とした自然体験はどのような経験があるか、また保育者に対する記憶からどのようなイメージがあるかを明らかにしていた。幼少期の水遊び体験は、自然体験や園・学校での水遊び、プール体験と様々であった。家庭生活と園・学校生活の双方における水遊び体験が記憶として残っていることが分かった。またこの記憶は、将来保育者となる予測がされる学生の実態をもとに記憶によるその後の成長過程への影響が検討されていた研究であった。

テーマ・概念として【環境を通して行う遊び】が導きだされた論文は7件であった。先述した幼児の色水遊び事例を検討している論文番号⑤、⑩、⑫、⑮、保育士の経験年数と3歳児の砂遊びの影響を調査した論文番号⑯は、共に幼児期の教育が環境を通して行うものであることを踏まえ、色水遊びや砂遊びを通して幼児が何を体験し、どのような育ちの過程であるかを検討していた。また、地域の植物を園の遊びにどのように取り入れているかについて検討を行っていた論文番号⑥は、幼児の生活に密着した環境の実態を把握していた。これと同様に、身近な環境として木を使用し、3歳未満児、3歳以上児、小学生、保育者と広くその遊びの方法や具体的な製作を検討した論文番号⑪は、対象によって遊び方や製作方法

も異なっていることを明らかにしていた。これは実践において、【環境を通して行う遊び】が重要であることに着目していることが分かった。

テーマ・概念として【社会に開かれた教育課程】が導きだされた論文は1件であった。実践は計画に基づくものであり、教材の中でも特に沖縄の植物を使用した草木染めや染め織遊びに着目し、その実態と今後の幼稚園における教材の導入について調査した論文番号⑥によると、地域による実態差や、具体的な体験プログラムや保育者の立案からの導入への期待が見込まれる結果であり、地域との協働による【社会に開かれた教育課程】の作成の必要性が示唆された。

テーマ・概念として【幼児期から児童期への接続】が導きだされた論文は4件であった。小学校体育科と幼児期の伝承遊び、水遊びに着目している論文番号④、⑧、⑬は、幼児期の遊びとその後の教科学習における具体的な内容の系統性と遊び導入の効果、実際の指導に関する指導の連続性と一貫性、相互の連携について実態を明らかにしていた。このことは、【幼児期から児童期への接続】に必須であるが課題も明らかとなった。また、色水遊びから生活科との関連を探った論文番号⑮の結果からは、幼児期の遊びと小学校の生活科への接続に向かうカリキュラムへ遊びの導入が示唆された。

テーマ・概念として【水遊びにおける健康安全】が導き出された論文は3件であった。論文番号①は、保育園における集団感染発生事例の検体検査を行い、その要因を明らかにした。検体は検便、保存食、水遊び用組み立て式プール底のふき取りより採取されており、園における健康安全の管理状況が、園を利用するすべての人の健康に参与していることが分かった。また、論文番号⑦の調査では、保育者をめざす学生自身の水遊びの体験から、配慮すべき事項として安全面が最も多く回答されて



おり、危険なイメージをもっていることも分かった。さらに、現役保育者に水遊びに対する調査を行った論文番号④によると、安全管理のための研修や体制に関する回答が多く得られ、ここでも水遊びへの安全への注目がなされている。【水遊びの健康安全】が重要視点であるといえる。

最後に、テーマ・概念として【幼児教育に関する教材理解】が導き出された論文は5件であった。幼児期と小学校体育科について、その接続と具体的な指導内容について検討を行った論文番号④、⑧は、幼児期の伝承遊びの基本的な理解を進めることで低学年の体育科への導入の可能性が示唆され、水遊びと水泳指導の指導内容について具体的な環境や指導教材についての検討が行われた。また、地域の教材使用の把握を行った論文番号⑥は、まさに幼児教育と地域の教材の導入についての実態を明らかにし、幼児教育における教材研究の重要性について示唆された。さらに教材中でも特に音楽教材に着目し、その歴史的整理を行った論文番号⑨は、明治に刊行された3点の幼児唱歌集の具体的な曲目、作詞作曲者、種類、曲構成を整理している。このことは、水遊びに関与してないかに概観できるが、唱歌の具体的な曲名では、水や川、海に関わる曲名もあり、前出の領域表現の内容取扱いの記載にあるように水や雨の音の表現を音楽教材から幼児がどのように感じ取るかといった、今の幼児教育における音楽教材への影響が推測された。また論文番号⑩の木という教材を使用した実践の具体的検討を行った研究は、水と木がどのような反応をするか、幼児と保育者の両者の実践を踏まえ、教材を取り入れるにあたり、保育者も教材そのものを十分に触れ、活用することが必要であることを導き出した。幼稚園教育要領(2018)において、「教師は、幼児と人やものとの関わりが重要であることを踏まえ、教材を工夫し、物的・空間的環境を構成しなければならない(下線は著者による)」とあるように、【幼児教育における教材の理解】は、何よりも重要であるといえる。

#### IV. 考察

##### 1. 研究目的と研究対象の検討結果からの考察

検討対象となった16件の論文の研究目的と研究対象の検討を行った結果からの考察を以下に示す。

##### (1) 研究目的

幼児の遊びに着眼している研究は、論文番号②、⑤、⑩、⑫、⑮、⑯である。水遊びに関わる幼児から、投影樹木法によって心理的変容の実験、幼児のつぶやきの継続的ICレコーダーによる記録や保育者の観察記録から

科学的萌芽の実態やにおいに気づく行動の調査、ビデオカメラによる録画記録によって幼児や保育者の行動の分析がなされている。これらは、幼児の発達の道筋を明らかにすることや保育者の援助の影響によって幼児の行動がどのように変容するかが明らかとなり、実践において幼児理解の有用な視点が導きだされると考えられる。幼児の遊びに着眼することは、遊び自体の全貌と個々の幼児の経験内容や発達の道筋を検討することが可能となるであろう。さらに、実践では、幼児の遊ぶ姿を評価することは必須である。また、昨今、着目されつつある幼児教育の質に関わる評価に関わり、実践の何をどのように評価するかを着眼点を明示することの一助に繋がるのではないだろうか。

また、論文番号③、⑦、⑭は保育者養成を視点に置く研究である。保育者養成では、未来の日本を担う子どもたちを育てることに携わるであろう未来の保育者を養成している。しかし、保育者の離職問題は、未だに継続課題として保育者養成校はもちろん、各園においても検討されている。ここでは、具体的な現状の課題を見出すことで養成校の課題解決となり、また、現職保育者に求められる実践力の向上に寄与することを可能とする。水遊びの体験、保育者養成課程における水遊びの具体的取り組みについて、未来の保育者が自身の実践に対してどのような哲学に対する貢献が示唆される。

次に、論文番号④、⑧、⑬は、幼児期からの児童期への連携・接続を踏まえた目的であり、特に水遊びと水泳に関わる保育内容並びに教育内容への示唆が予測できる。1990年代より、幼児期と児童期の接続は、研究者からも実践者からも注目され続けている視点である。幼稚園教育要領解説(2018)にも示されている通り、幼児は、身近な水に関わる遊びにおいて水遊びで好奇心や探究心の芽生えを育てていく。このことから小学校体育科の低学年水遊びから水泳指導へ接続を考えることは、現職保育者にも現職小学校教諭にも課題となり続けていることが伺える。これと近似するが、さらに、論文番号⑥、⑨、⑪は、教材を視点においた研究である。幼児教育において環境を通して行う教育は基本であるが、教材研究は終わらない課題であるともいえる。幼児を取り巻く環境すべてが、教材である。幼児教育における水という環境を思い浮かべても、生活の中にある人工的な水、自然界にある水と様々な水がある。水遊びに関わる教材観や地域における教材の導入について、幼児に適した教材を追究することができると考えられる。最後に、論文番号①は、園生活における水遊びによって幼児の健康に直結する研究目的である。水遊びをする上で幼児や園の職員はもとより、幼児の家族も含め衛生管理、安全管理

は、幼児の命を守る上で何よりも重要な視点である。特に水遊びは、普段よりも長時間にわたり、幼児の体が水に接触することとなる。そのため、衛生上の問題を抜きにすることはできない。しかし、このことは医療分野の知見が必要となり、より専門的な領域による研究課題となると推測できる。

このように、研究目的は多岐にわたっている。しかし、具体的に水に関わる遊びや水を使った遊びに着目された研究はあるものの、「水遊び」をなぜ幼児が楽しむのか、そのことを追究された研究は見当たらない。また、「水遊び」を通してより質の高い実践や幼児理解に貢献できると考えられる研究目的としては、十分であるとは言い難い。

## (2) 研究対象

研究対象は、まず、公立、私立の保育所・保育園・幼稚園に在籍する園児、幼児が挙げられる。さらに、内訳は、園児すべて、年少児、年中児、年長児、3・4・5歳と記載がある。これらのことから、水遊びを実際にする乳幼児を対象とした集団の場や年齢もそこに在籍しているすべての乳幼児が対象と成り得ることが考えられる。また、勤務する職員（保育士、幼稚園教諭）に加え家族も対象となっていたり、園という組織が対象となっていたりする場合もある。このことから、水遊びに関わる団体や周囲の大人が対象と成り得ると考えられる。次に学童保育の小学生、小学校教諭、保育者養成校（短期大学、4年制大学）の大学生が対象となっている。加えて、採取された検体、保存食、文献がある。このように、乳幼児、乳幼児が集団で生活する場だけではなく、その後の児童や小学校教諭、保育者を目指す学生も対象であることから、乳幼児期以降、児童期に関わる教諭、乳幼児の専門職と目指す学生にも水遊びの関連があることが示唆される。そして、人だけではなく、人から得られる水に含まれる検体保存食、文献を対象としても研究が蓄積されており、研究対象としての年齢や立場が多岐にわたっているといえる。これらのことを踏まえ、水遊びに関する研究では、幼児を対象とした研究から知見を得て蓄積していく必要がある。

## 2. 研究結果の分析結果からの考察

SCATによる分析結果から、考察を行う。分析結果から、大きく7点の概念が抽出された。その概念は【\*\*\*】で記載することとする。

まず、1点目は【環境を通して行う遊び】である。この概念が抽出された論文番号は、⑤、⑥、⑩、⑪、⑫、⑮、⑯である。幼児教育は【環境を通して行う遊び】であることは周知のことである。学校教育法（2020）第三

章第二十二條では、「幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健全やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。」とある。また、幼稚園教育要領（2018）第1章総則第1幼稚園教育の基本では「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法に規定する目的及び目標を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」とある。幼児は、身近な環境に興味を示し、主体的に関わり様々な遊びの中で、思考したり、探究したりしながら幼児期に育む資質能力を身に付けていく。幼児が、水と出会う場は、園生活だけに留まらず、家庭、地域、公共の遊技場など様々な場があることが推測できる。また、出会う水も自然の水、人工的な水とある。幼児を取り巻く環境すべてに水は存在し、生活においても水を失くしては生きていくことはできない。幼児にとって身近な水と関わる遊びの中で、様々な水の様相と出会うことで水の本質を探究したり、水の性質を実感したりすることは幼児期の教育の目的に合致しているといえる。

次に2点目は、【幼児教育に関する教材の理解】である。この概念が抽出された論文番号は、④、⑥、⑧、⑨、⑪である。先述したように幼児期の教育は環境を通して行う教育である。幼児の生活にある水という身近な環境が教材であることを保育者が追究し続けることは、その教材に内包される教育的価値を見出すこととなる。保育学用語辞典（2019）によると、「教材 Instructional materials/teaching materials 教育内容を提供する際に用いる具体物。保育では、保育者が教育の意図をもって物や事象を活用する際に、その機能に焦点を当てて『教材』『教材化』と用いることが多い。」示されている。そして、幼稚園教育要領（2018）には、「教師は、幼児と人やものとの関わりが重要であることを踏まえ、教材を工夫し、物的・空間的環境を構成しなければならない。」とある。このように【幼児教育に関する教材の理解】は、幼児の今の成長発達、幼児期以降の育ち、保育者の実践の質へ大きな影響があると考えられる。

3点目は、【幼児の遊びにおける効果の検討】である。この概念が抽出された論文番号は、②、⑤、⑩、⑫、⑮、⑯である。幼児期は、その発達の特性を踏まえ、直接的・具体的な体験を通して園生活が展開されている。幼稚園教育要領解説（2018）序章第2節2幼稚園の生活には、次のように幼児の生活について示されている。「幼児の生活は、本来、明確に区分することは難しいものであるが、具体的な生活行動に着目して、強いて分けるならば、食事、衣服の着脱や片付けなどのような生活

習慣に関わる部分と遊びを中心とする部分とに分けられる。」このように、幼児が遊びを中心とした生活を送ることは明確である以上、幼児の特性や幼児期の教育の在り方を踏まえ、実際の幼児の事例や遊び場面の分析・評価は幼児教育の具体的効果を検討し、水遊びにおける各年齢による発達過程を明らかにしたり、水遊びの意義を明示したりすることは幼児教育の在り方を社会に示すこととなり【幼児の遊びにおける効果の検討】は、重要な点であることが考えられる。

4点目として、【幼児期から児童期への接続】である。この概念が抽出された論文番号は、④、⑧、⑬、⑮である。これまでも述べてきたが、幼児期は環境を通して行う教育であり、遊びが中心となっている。これに比して、小学校では、教科学習が中心である。幼児期の水遊びが小学校の教科学習とどのように接続することが推測されるか、また実際に幼児が経験している水遊びと関連する教科学習の具体的内容は何かについて、幼児教育側から見た課題と小学校教育側から見た課題を整理すると共に、より効果的な遊びの内容や教科学習の内容を模索することは、それぞれの園校種の教育内容の相乗効果が考えられる。

5点目は、【水遊びにおける健康安全】である。この概念が抽出された論文番号は、①、⑦、⑭である。水は、我々人間の生活に密着する環境である。生命の保持に不可欠であると共に、自然災害やレクリエーションの機会などでは、水による命の危険も隣り合わせである。幼児期から水に関わる遊びを体験することによって、様々に変容する水の性質や特性を幼児自身が気づき、水と関わる遊びを探求したり、水の安全性や危険性を把握したり、時には危険を予測したりする資質・能力を身に付けることが予見できる。また、幼稚園や学校などは、多くの幼児や保護者、その他地域の方々が利用する場となる。園を利用する人すべての健康と安全を考慮しなくてはならないことを踏まえると、【水遊びにおける健康安全】は、水を通して遊ぶことにおいて、水に関わるすべての人を循環する特性を踏まえると欠かすことができない視点であると考えられる。

6点目は、【遊び体験の記憶による影響】である。この概念が抽出された論文番号は、③、⑦である。保育職の離職率は、厚生労働省の社会福祉施設等調査(2016、2017)によると、2017年時点で9.3%である。また、指定保育士養成施設卒業者の内定先等に関する調査研究(2019)によると、養成校の学生が、保育職への就職を目指すことを決めた理由は、「保育者になることが夢だったから78.6%」次いで「資格・免許が取得できるから25.2%」「授業を通して保育の面白さや、やりがい

感じたから24.5%」となっている。8割弱の学生が、夢だったからと回答していることから、学生の幼少期の記憶の影響が推測される。つまり、幼少期に学生自身が経験した水遊びの楽しさや面白さは、保育者を目指す学生が、将来、保育者となった際に、その実践に影響を及ぼすことが推測できる。また、園で勤務する保育者は、幼児が生活する中で、その事故防止のための安全管理、また、安心して遊ぶことを保障する責任を担う職業である。このことから保育者は、専門的力量を備えた専門職であると換言できる。ならば、保育者を目指す養成段階以前、一人の人間としてどのように生きてきたか、またその今までを土台に保育者としてのその先をどのように生きるかは、専門職として勤務後の力量形成にも影響があるといえる。【遊び体験の記憶による影響】があることを踏まえ、幼児教育における高度な専門職として自己成長を更新し続けることが求められるといえる。

7点目は、【社会に開かれた教育課程】である。この概念が抽出された論文番号は、⑥である。幼稚園教育要領(2018)前文には、次のように記載がある。「教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有し、それぞれの幼稚園において、幼児期にふさわしい生活をどのように展開し、どのような資質・能力を育むようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。」幼児は、園だけの生活ではなく、家庭、地域、園というサイクルの中で生活している。幼児の望ましい発達を願い、各園ではその地域実態に沿った教育内容を明示し、幼児が充実した生活を送ることができる計画を示す必要がある。そして、園、家庭、地域の連携により、幼児は何ができるようになるか、何を学ぶか、どのように学ぶか、一人一人の幼児をどのように援助するか、幼児に何が身に付いたか、今後の教育活動のよりよい改善に向けて何が必要かを踏まえ、幼児期の遊びが重要であることについて幼児を取り巻くすべての社会と共に構築していくことが必要であるといえる。

## V. 総合的考察と今後の課題

本研究は、「水遊び」と総称される幼児が水と関わる遊びについて先行研究を概観し、その研究目的、研究対象を検討、研究結果を分析することを通して、「水遊び」に着目した今後の研究動向を整理することを目的とした。その結果、研究目的、研究対象、研究結果を照ら



し合わせても、分類した結果が合致するものとはならなかった。これは、我が国の幼児教育における水遊びに関する研究動向が、散見していることを明示しているといえる。しかしながら、先行研究から導き出された知見として研究結果の分析より、今までの研究視点を整理することを試みた。その結果、図1に示すように整理することができた。これを1つの今後の研究課題の方向性として考えることができる。

### 1. 幼児教育の実践に関わる領域

幼児教育の実践に関わる領域として考えられる概念は、次の4点であった。【幼児の遊びにおける効果の検討】、【遊び体験の記憶による影響】、【環境を通して行う遊び】、【社会に開かれた教育課程】である。これは、幼児の直接的な育ちに影響がある視点であるといえる。幼児教育は、環境を通して行う教育であると周知されている。つまり、遊びによる教育的効果を幼児の確かな育ちを可視化すると共に保育者の実践から客観的評価を行うことで、幼児教育が社会的に認知され、実践における高度な専門性の評価につながるのである。このことは、保育者という専門性の高さを今後さらに社会的認知の拡大と幼児教育の意義の理解を可能とする。そして、園だけで行われる閉鎖的な実践ではなく、地域社会との協働により日本の未来を担う幼児を育てていく開かれた実践を教育課程として示すことは、幼児教育が我が国で更に注目され、高度な実践力を要する幼児教育である事実と保育者のさらなる社会的地位の確立へも寄与できると考える。

### 2. 児童期との接続に関わる領域

児童期との接続に関わる領域として考えられる概念は、【幼児期から児童期への接続】であった。幼児の育ちは、保育所・幼稚園・認定こども園で途切れるのではなく、その後の育ちに繋ぐことが求められる。藤田ら(2017)の調査では、保育者と小学校教諭に運動遊びや体育の内容に関して交流・連携の実態の回答では、約8割は行っていないことが明らかとなった。このことは、未だ、幼児期から児童期への接続の実態が、十分ではないことが伺える。遊びと教科学習という教育内容、教育方法の違いがあることを前提に、接続に対する体制作り、カリキュラムの構築、接続の必要性について、今後も継続的に検討を行うことで、解決に至っていない課題を解決する方法を導くこととなり、新たな幼児教育と小学校教育の在り方への提言が可能となる。

### 3. 幼児教育に関する基礎的な視点に関わる領域

幼児教育に関する基礎的な視点に関わる領域として考えられた概念は【水遊びの健康安全】と【幼児教育に関する教材の理解】の2点であった。【水遊びの健康安全】の概念が導き出された先行研究は、一見、水遊びに関連が薄いもののように見える。しかし、研究目的、研究対象、研究結果からは、水遊びに関わる命の危険に関連する視点の研究であった。水遊びは、その場面によっては、多くの人に関与することが予想される。すべての人の健康安全に関わる対策は、何よりも重要である。安全で安心な水遊びを展開するにあたり、保育者という専門職だけでなく、さらに広い専門職との連携により、命の危険が予測される出来事や状況を回避することができるのである。次に、【幼児教育に関する教材の理解】である。先述したが、幼児教育では、教材という用語が用いられることは少なかったが、幼稚園教育要領(2018)では、教材という用語が用いられている。今後の幼児教育では、その質向上は余儀なく求められている。今一度、環境を通して行う教育の意義や、教材の教育的価値について保育者自身が熟考することや自身の実践を省察することを通して、教材研究を再考することは、我が国の保育者が、幼児の主体性を重視し、保育者が教材の価値を見出し、幼児に寄り添いながら実践する自身の実践手法が意義あることを自覚化することになると考えられる。

本研究では、文献情報・学術情報検索サービス CiNii Articles 並びに CiNii Research を使用し、研究対象を抽出した。今回の研究対象だけでは、文献が少なく十分に検討されたとは言い難い。今後の研究課題の整理を行う予備調査に留まってしまった。そのため、結果は限定的にならざるを得ないと考えている。しかし、今回の研究結果より、次の点が、今後の課題として導き出された。

(1) 幼児教育の実践に関わる領域の研究では、幼児のつぶやきや行動に着目されている。加藤(2013)は、幼児のつぶやきを分析、貞方ら(2018)、岩渕ら(2020)は、エピソードを分析、小幡ら(2019)は、ビデオカメラ録画データより複線経路等至性モデル、貞松(2021)は、VTR録画法にてELANの解析による行動分析を実施している。しかし、幼児がなぜ、水で遊ぶのかというつぶやきと行動に着目されたものは見当たらない。

(2) 貞松(2021)は、砂に水を加えて遊ぶ行動の結果から、砂場における水は砂の性質そのものを変容させ、砂遊びの幅を広げており、水が加わることで遊びが豊かになることを指摘している。このことから、遊びにおける水の有用性について検討をすることは意義があると考えられる。また、幼稚園教育要領解説(2018)の記載



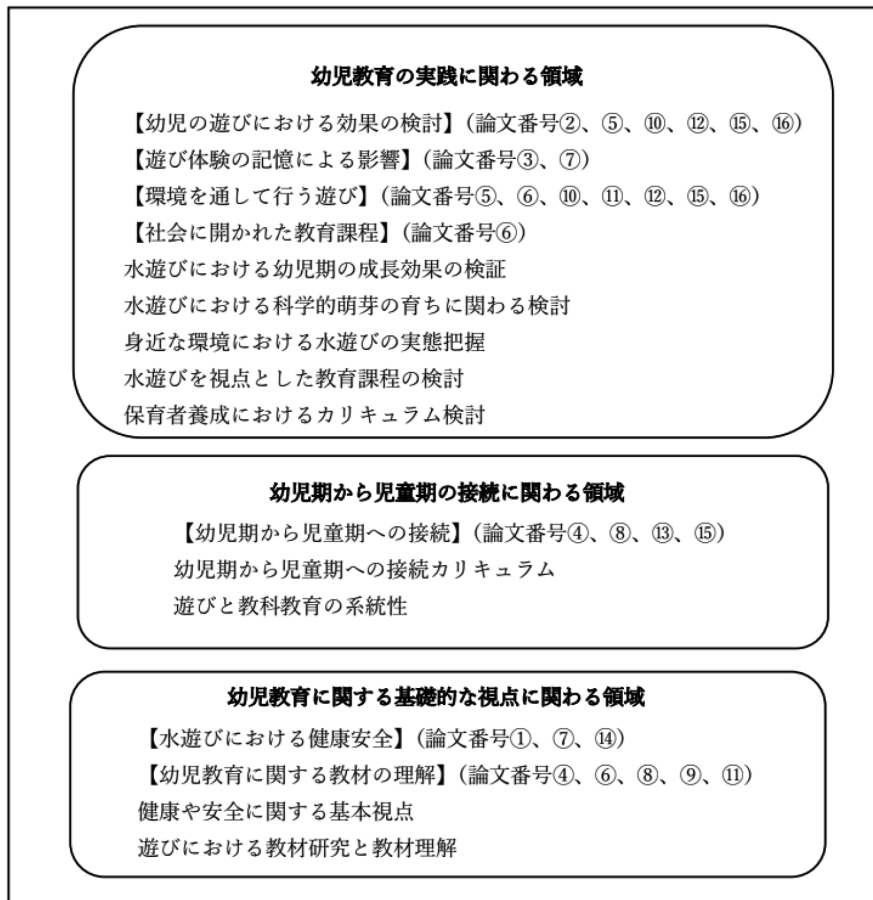


図1. 「水遊び」に関する今後の研究視点の整理  
 (【\*\*\*】は分析結果で抽出された概念を記載)

にあるような自然現象で生じる水の特性に着目された研究も今回の研究対象からは抽出されなかった。自然現象は、偶発的な事象が多くあると考えられる。この事象を捉えることは難しいと予想されるが、幼児が水の特性と出会う貴重な機会であり、研究課題の視点として継続的な検討をする。

(3) 幼児教育の実践に関わる領域の研究は、2005年、2013年、2018年、2019年、2020年、2021年と2018年以降に4件があるため、実践研究として公表された研究を探ることで新たな研究課題を導き出せる可能性がある。

今後、さらに今回、取り上げた個々の研究から明らかになった視点をもとに、更に水遊びについて研究領域を探り、精査する必要があると考える。

**注**

- 1) 本研究では、3歳以上の幼児を指す。
- 2) 質的データ分析のための手法 SCAT (Step for Coding and

Theorization) を示す。ここでは、大谷 (2008、2011) の手順に沿って分析を行った。

**文献**

秋田喜代美 (2019). 保育学用語辞典 中央法規出版株式会社。  
 藤田公和、中野真知子 (2017). 幼稚園・保育所における水遊び・水泳指導の実態と小学校体育「水泳」との系統性・連携について 桜花学園大学保育学部研究紀要, 15, pp.127-135.  
 石川悟司 (2009). 子どもの心の動きと保育の意図の繋がりを考える～私的体験「泥団子作り」からあそびの面白さを探る～ 盛岡大学紀要, 26, pp.51-61.  
 石川恭、加藤玲香 (2013). 小学校体育科への伝承遊び導入について～子どもたちの直面する様々な問題との関わりから～愛知教育大学教育創造開発機構紀要, 3, pp.19-25.  
 一般社団法人全国保育士養成協議会 (2019). 指定保育士養成施設卒業者の内定先等に関する調査研究報告書 全国保育士養成協議会ホームページ。  
<https://www.hoyokyo.or.jp/R2report.pdf> (2021年12月17日閲覧)  
 岩渕善美、金子真理、大矢宣絵、井上容子 (2020). 主体的・対話的で深い学びの観点からの身近な植物を活用した幼児の

色水遊びの分析：生活科へつなぐ試行錯誤のお茶作り遊び  
平安女学院大学研究年報, 21, pp.59-70.

加藤尚裕 (2013). 5歳児の遊びにみられる科学的萌芽：砂場遊び、シャボン玉遊び、色水遊び、泥だんごづくりの事例を通して 国際経営・文化研究, 18, pp.17-28.

河田聖良 (2019). 幼稚園と小学校の連携－「水遊び」に着目して－ 日本体育大学大学院研究科紀要, 3(1), pp.57-73.

川合常明、廣地敬、坂本裕美子、赤石尚一、大谷倫子、藤田晃三 (2002). 集団感染事例における腸管出血性大腸菌 O26 分離培養法の検討 札幌市衛生研究所年報, 29, pp.70-75.

厚生労働省 (2016). 社会福祉施設等調査 厚生労働省ホームページ.  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/fukushi/16/index.html> (2021年12月17日閲覧)

厚生労働省 (2017). 社会福祉施設等調査 厚生労働省ホームページ.  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/fukushi/17/index.html> (2021年12月17日閲覧)

厚生労働省 (2017). 保育所保育指針〈平成29年告示〉 株式会社フレーベル館.

厚生労働省 (2018). 保育所保育指針解説 株式会社フレーベル館.

栗原泰子、野尻裕子 (2005). 原風景としての幼児期－保育者養成課程学生の思い出し記録から 川村学園女子大学研究紀要, 16(2), pp.13-21.

文部科学省 (2017). 幼稚園教育要領〈平成29年告示〉 株式会社フレーベル館.

文部科学省 (2018). 幼稚園教育要領解説 株式会社フレーベル館.

文部科学省 (2020). 学校教育法 文部科学省ホームページ.  
<https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=322AC0000000026> (閲覧2021年12月15日)

守川美輪 (2018). 木の船をつくって遊ぼう 宮崎国際大学教育学部紀要, 教育科学論集, 5, pp.28-39.

村山貞雄 (1980). 幼児保育学辞典 明治図書出版株式会社.

内閣府、文部科学省、厚生労働省 (2017). 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉 株式会社フレーベル館.

内閣府、文部科学省、厚生労働省 (2018). 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 株式会社フレーベル館.

中坪史典、山下文一、松井剛太、伊藤嘉余子、立花直樹 (2021). 保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典 株式会社ミネルヴァ書房.

小幡真菜、若山育代 (2019). 自然物を用いた色水遊びにおける年中児の同型的行動：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連 とやま発達福祉学年報, 10, pp.3-12.

大谷尚 (2008). 4ステップコーディングによる質的データ分析手法 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (教育科学) 第54巻, 第2号, pp.27-44.

大谷尚 (2011). SCAT: Step for Coding and Theorization－明示的手続きで着しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法－ 日本感性工学会論文誌, 第10巻, 第3号, pp.155-160.

大辻隆夫、塩川真理、田中野枝 (2005). 保育における水遊びの効果に関する一研究－投影樹木画法における成長指標 (GCL) とトラウマ指標 (TCL) からの検討 京都女子大学発達教育学部紀要, 1, pp.51-61.

大山伸子 (2018). 明治の洋楽草創期における幼児唱歌集に関する研究 沖縄キリスト教短期大学紀要, 47, pp.49-70.

貞方聖惠、野見山萌、川里智子、船越美穂 (2018). 幼児のにおいへの気づき－色水遊びを通して－ 福岡教育大学紀要, 第六分冊, 教育実践研究, 67, pp.1-8.

貞松成 (2021). 保育士の保育経験年数の違いが3歳児の砂遊びに与える影響 大阪総合保育大学紀要 15号, pp.81-94.

佐久本邦華 (2017). 沖縄県内幼稚園における地域に根差した造形教育の取組み：身近な植物を用いた造形や染め織りの実践に関する調査 (2) 沖縄キリスト教短期大学紀要, 46, pp.19-39.

新村出 (2018). 広辞苑第七版 株式会社岩波書店.

谷田貝公昭 (2019). 改訂新版保育用語辞典 株式会社一藝社.

渡部昌史、斎藤健司、岡本直行 (2017). 子どもの水遊びについて－保育者養成の観点から－ 新見公立大学紀要 第38巻, pp.161-165.

山田悟史 (2020). テキストマイニングによる幼稚園・保育所における水遊びに関するアンケート調査の分析 スポーツと人間：静岡産業大学論集, 4(1), pp.173-180.

## 謝辞

本論文を作成するにあたり、ご指導いただきました大阪総合保育大学大学院 大方美香教授、並びに、匿名査読者の先生方から貴重なご助言をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

## 付記

本研究に関して開示すべき利益相反関連事項はない。

# Trends in Research on “Playing in the Water” in Early Childhood Education in Japan

Miyuki Hiramatsu

*Osaka University of Comprehensive Children Education Graduate School*

The purpose of this study was to review the previous studies on “playing in the water” in early childhood education in Japan, and to sort out the research trends focusing on “playing in the water” by examining and analyzing the research contents. This research, where there are few documents targeted, is a preliminary survey simply to sort out future research issues. Although the results had to be limited, through the literature of “playing in the water”, the research areas and components were classified as follows, The concepts derived from the results of SCAT analysis are described in [\*\*\*]:

1. Areas related to the practice of early childhood education [Examination of effects on early childhood play] [Play through the environment] [Impact of memory on play experience] [Understanding of teaching materials related to early childhood education] [Educational course open to society]
2. Areas related to connection with childhood [Connection between early childhood and teaching period]
3. Area of basic perspective on early childhood education [Health and safety of playing in the water] [Understanding of teaching materials related to early childhood education]

The above results showed us that the research on “playing in the water” in early childhood education in Japan focuses not only on the perspective of research areas related to practice, but also on the connections after early childhood and health and safety.

**Key words** : early childhood, playing in the water, play, early childhood education, childcare

